

「小児ガン病院レントゲン装置デジタル化計画」 供与式

2月13日（月）、サンパウロ市内において「小児ガン患者支援グループ(GRAACC)」に対する草の根・人間の安全保障無償資金協力の引渡式が実施されました。

同引渡式は同団体が運営する小児ガン病院において実施され、西林万寿夫在サンパウロ日本国総領事、アントニオ・セルジオ・ペトリリ GRAACC 総括経営管理理事、ジルベルト・カサビ・サンパウロ市副市長ら約50名が出席しました。

式典において、ペトリリ理事は「本日は、日本政府のお陰ですばらしい機能を持つレントゲン機材の供与式を実施出来たことにお礼を申し上げます。」と感謝の言葉を述べた上で、「供与されたレントゲン機材が、小児ガンと闘う子供達の役に立つだろう。」と述べました。続いて、セーラ・サンパウロ市長の代理として出席したカサビ副市長は、日本政府の協力に対し厚い謝意を表明しました。

これらに対して、西林総領事は「小児ガンの早期発見、早期治療に寄与することが出来、小児ガンに苦しむ子供達やその家族の役に立てることを光栄に思う。」と挨拶しました。

引き続き、地下一階の放射線科へ移動し、機材の記念除幕式を行った後、ペトリリ理事が病院内を案内しました。



挨拶をする西林総領事（左）
カサビ副市長（右から2番目）
他供与式に出席された皆さん



ペトリリ理事（左）より血液検査の
詳細を聞く西林総領事（右）

○上記案件のプロフィール

案件名：「小児ガン病院レントゲン装置デジタル化計画」

被供与団体：小児ガン患者支援グループ（GRAACC）

契約署名日：2005年9月19日

供与限度額：58,938米ドル

案件概要：

GRAACC は、サンパウロ市内で小児ガン専門病院を運営する非営利団体です。小児ガンは早期発見した場合、治癒率が高いガンであることから、我が国の資金協力により、ガンの早期発見に有効で、より精密な撮影が可能になるデジタルレントゲン装置を導入しました。



デジタルレントゲン機材